

## 環境情報戦略（仮称）の検討に当たって、整理すべきポイント

1 持続可能な社会の構築のために必要な環境情報の範囲や優先して収集すべき情報  
～持続可能な社会作りに必要な情報は何か～

- ・環境の状況だけではなく、「負荷」、「対策」、及び「これらを左右する活動」についての情報が必要であり、それぞれ、どのような情報が集められ、利用されているかの確認し、欠けている情報分野を明らかにする。
- ・情報を必要とする主体（行政、企業、NPO、市民、研究者など）のニーズから見た必要性、優先度の高い情報を整理。その中で、国が整備すべき情報は何かを再確認する。

2 環境情報の収集、整理、保存、行政における利用及び国民への提供のあり方  
～情報が集め、生かされるまでの一連の情報の流れはどうあるべきか～

情報の種類、ニーズごとに「情報の一連の流れ」をうまく作っていくことが大切  
個別のフェーズとしては、以下が考えられ、これらの質の向上と、全体のコーディネートが大切。それを可能とする「仕組み」は何か。

- ・情報を必要とする主体のニーズの把握方法
- ・情報を集める仕組みの在り方
- ・整理保存する仕組みの在り方
- ・情報を国、自治体の政策に生かす仕組みの在り方
- ・情報が、企業・市民の取組に生かすことを促進する提供の在り方
- ・これらの効率化に役立つ IT 技術の洗い出し、評価

3 地方公共団体とその研究機関、また民間団体等との役割分担や相互連携のあり方  
～情報の「横の連携」をどう確保し、情報の価値を高めるか～

情報を収集、活用する主体間の連携・調整を図り、関連する情報の関連付け、比較可能なデータ整備などにより相互連携を確保して情報の収集、整理、提供することは、その情報の価値を高める。どのように「横の連携」を組んで、情報価値を高めるか。

- ・情報の収集、整理、保存、利用、提供における「横の連携」が必要な局面（データ比較・各国／経年／主体別等々、政府と研究機関との協力など）
- ・「横の連携」を可能とする仕組みの検討
- ・行政として「横の連携」を支援する政策の在り方

#### 4 諸外国、特にアジア太平洋地域との連携協力のあり方

～国境を越える環境情報をどのようにアジアを中心とした地域に生かしていくか～

国境を越えて環境情報の「横の連携」を進める事業、枠組みが整備されつつある。その現状はどうなっていて、その効果的な展開のためには、どのような課題があり、取組が必要か。

- ・環境分野での国際的情報共有、交流に関わる政府間、国連等の国際機関、NGO等の民間組織の枠組み・取組を整理、分野、地域などでマッピングし、それぞれの活動に当たっての課題の特定
- ・今後の「環境情報国際交流」の効率的な実施枠組みの検討

(参考)

検討スケジュール

日 程	議 題
10月12日	第1回 「持続可能な社会づくりに必要な情報」
11月2日	第2回 「情報の一連の流れ」と「情報の横の連携」
12月7日	第3回 「国境を越える環境情報」 論点整理・基本的方向
1月～6月	ヒアリングなどを実施
7月～10月	専門委員会を数回程度開催 より具体的な施策を盛り込んだ「環境情報戦略案」を策定。 部会に報告。